

2009年度 東京都生協連第1回ピースセミナー

「未来に生きる子どもたちのために」～核なき世界へ～

開催報告

開催日時 2010年2月2日(木) 13:30～15:30

開催場所 中野サンプラザ13階 コスモホール

主催 東京都生協連平和活動担当者連絡会

参加 248名(コープとうきょう、パルシステム東京、東都生協、東京南部生協、全労済東京都本部、自然派くらす生協、東京保健生協、東京ほくと医療生協、パルシステム連合会、日本無線生協、農林水産省職員生協、大学生協、消費者住宅センター、東京災害ボランティアネットワーク、連合東京、東京都生協連友の会、東京都地域婦人団体連盟、東京都地域消費者団体連絡会、生協流通新聞、地域生活研究所、日本生協連、東京都生協連、他)

東京都生協連平和活動担当者連絡会では、核兵器を世界中からなくすために様々な活動を進めてきました。

2008年度は署名活動に取り組み、核兵器廃絶の思いを集約し2009年5月のNPT(核不拡散条約)再検討会議準備委員会へ届けました。2009年度は引き続き「核兵器廃絶」柱に2010年5月に開催されるNPT(核不拡散条約)再検討会議の成功に向け活動を進めています。多くの人たちと核兵器廃絶の思いを共有し、更に活動を進めるために、平和市長会議の副会長である田上長崎市長をお招きし、第1回ピースセミナーを開催しました。

パルシステム東京理事小山さんの司会で開会しました。



参加者でいっぱいになった会場



◆ピースコンサート

山下孝之さんの奏でるケーナの響きは、会場をひとつにして参加者全員の平和への思い、核兵器廃絶の思いがより一層強くなりました。

◆主催者挨拶

東京都生協連伊野瀬会長理事より、講師の紹介とNPT再検討会議への東京の生協からの代表団派遣の挨拶がされました。



主催者挨拶をする伊野瀬会長理事

◆田上富久長崎市長講演

「未来に生きる子どもたちのために」～核なき世界へ～

「核兵器の問題は昔の話ではなく、今の話であって、未来の話である。未来を私たちがどう作ろうとしているのか、今生きている私たちに、その責任がある」という話から始まりました。

長崎の被爆の前後の町の様子や、それを取り巻く世界情勢、長崎に原爆が落とされるまでの動き、原子爆弾の被害・惨状、その後の平和活動についてスライドを使いお話がありました。

核兵器は今の問題

放射線が、いつどのように人間に影響を及ぼすのか、未だに全部は解明されていない。被爆者の方たちの問題は決して65年前の話ではなく、今もずっと被害を与え続けている核兵器の恐ろしさは長く続いてしまう。だから、もし今から核兵器がどこかの国に落とされ放射能を受ける人たちがいたら、そこからまた、50年、60年と苦しまなければならないということを理解して欲しい。

今も沢山の核兵器があり、何度も何度も世界を滅ぼすことのできるだけの核兵器を人間は持っている。だからこそ核兵器の問題は過去の話ではなく、65年前に落とされた原爆の影響が今も続いているということ

とは別に、落とされるかもしれない核兵器が今も沢山あるということを多くの皆さんに理解して欲しい。

軍拡の歴史

65年間を考えるとときに私たちが考えなければならないことは、最初ドイツが核兵器を作るのでは…という不信感から始まった歴史、力づくで他の国を押さえようというところから始まった歴史がどのように進んでいくのかということ。不信感や力づくの方向で生まれた歴史は、核軍拡の歴史へと進んでいった。

NPT条約（核不拡散条約）は、核を持っている国が今後きちんと減らしていく、無くしていくということと合わせて行くことで、持ってしまった核兵器を無くす道である。今はこれ以上、保有国を増やさないとこと。その一方で保有国は確実に減らしていく。この2つが同時に進めば無くしていくことができるという条約。しかし、その条約に加盟していない国もあり保有国も増えている状況で危険性は増している。

人間は安全のために兵器を作ろうと思ったのかもしれないが、現実を見るとどんどん危険性は増しているということを知らなければならない。そして、無くしていくという方向に明確に行くしかない。「NPTもしっかり守り、保有国はしっかり無くすということを見せなければいけない」ということをもっと多くの人が声を上げていかなければならない。

子どもたち、孫たちのために

人間はそもそも核兵器を持つべきではなかったし、使ってはいけなかったものだと思う。持ってしまった核兵器をこれから、多くの市民と政府が力を合わせて廃絶していかなければならない。オバマ大統領が登場し核兵器がない世界をつくるという目標を示した。「核兵器はいらない」という声を世界中の人々が上げれば政府を動かす力になる。私たちは傍観者や批評家、評論家になってはいけない。今の時代を生きている、核兵器がこれから人類を滅ぼすかもしれないという時代に生きている私たちの責任として、核兵器を未来に残さない、子どもたちの世代に残さない、孫たちの世代には核兵器のない世界に戻すという意志を明確に表明する時が来ている。

被爆者の思い

被爆者の方たちが話をしているのは、自分たちのために話しているのではない。自分が居なくなった後に決して核兵器を使うことがないように、そして自分が知らない国のまだ生まれていない子どもたちも核兵器の経験をするのがないようにという思いで語ってくれている。人間の辛い思いというのを思い出して話す時には、もう一度辛いことを思い出さなければならない。それは、心の中に血を流すことと同じだと思う。

被爆者の皆さんは、毎回心の中に血を流しながら話してくれている。それは、未来の子どもたちのために話してくれているということ。その思いを無にしてはいけないと思うし、私たちは被爆の体験は共有できなくても核兵器を未来に残さないという思いは共有できる。

今、非常に大事な時期、皆さんと一緒に大きな流れを作っていきたい。今年はNPT再検討会議があり、この中の代表の皆さんもニューヨークに行ってもらえるということで心強く思う。被爆国の国民、私たちからまず、核兵器のない世界を目指そうという動きをつくり、その声を上げていこう。

◆NPT再検討会議代表派遣メンバー紹介



ニューヨーク代表派遣メンバーの皆さん



「傍観者になってはいけない」と田上長崎市長

コープとうきょう 小浦道子さん、パルスシステム 東京 松本みなみさん、東都生協 松島正枝さん、東京保健生協 金子浩一さん、全国大学生協連 竹之内浩紀さん、日本女子大学生協 大坂彩さんの6名が紹介され、代表でパルスシステム東京の松本みなみさんが「私たちは、核兵器廃絶を願う皆さんの思いを背にニューヨークに行ってきます。」と力強い決意表明がされました。